

事後評価シート

【評価年月】 平成15年4月
【主管課・室】 自然ふれあい推進室
自然環境整備課
【評価責任者】 自然ふれあい推進室長 渋谷 晃太郎
自然環境整備課長 塚腰 光男

施策名、施策の概要及び予算額

| | |
|-------|--|
| 施策名 | - 8 - (6) 自然とのふれあいの推進 |
| 施策の概要 | 多くの人々が多様な自然とふれあうことができるよう、自然公園等の優れた自然を有する地域から、里山等の身近な自然を有する地域までの幅広いフィールドにおいて、施設整備等を通じて自然とのふれあいの場の整備を図るとともに、自然とのふれあい活動をサポートとする人材の育成・確保、自然とのふれあい行事や自然体験プログラムの提供、自然とのふれあいに関する情報の提供など、自然とふれあうための機会や情報の提供を実施。また、一定のルールの下で、自然環境に配慮したエコツーリズムを推進。 さらに、温泉については、温泉法の適正な運用に努めるとともに、国民保養温泉地の指定と各種公共施設の整備を実施。 |
| 予算額 | 13,936,069千円(14年度予算) |

目標・指標、及び目標の達成状況

| | |
|------|---|
| 目標 | 自然とのふれあいを求める国民のニーズに的確に応えるとともに、自然とのふれあい活動を通じて、自然への理解を深め、自然を大切にしたい気持ちを育成する。 |
| 達成状況 | 人材育成や活動プログラムの開発等による自然とのふれあい活動のサポート、自然ふれあい行事開催やインターネットによる情報提供など自然とふれあう機会や情報の提供、利用拠点における駐車場の整備等、公園利用の活性化を図る事業等による自然とのふれあいの場の整備、及び温泉法の適正な運用等による温泉の保護と適正利用の促進を行い、上記目標の達成に努めた。 |

| | |
|-------|--|
| 下位目標1 | 自然公園指導員やパークボランティアの活動の質の向上及び自然公園のビジターセンター等での自然解説活動を行う者の質の向上を図る。また、自然ふれあい体験活動の先進地である田貫湖ふれあい自然塾等で、モデル的な体験 |
|-------|--|

| | |
|------|--|
| | プログラムの開発、実践を進め、情報発信等を実施する。 |
| 達成状況 | <p>国立公園等において、約 3,000 人の自然公園指導員が活動しており、利用マナーの指導等を実施した。</p> <p>国立公園 7 地区において、新たにパークボランティアの追加登録に係る研修会等を実施した。全国 36 地区において、約 2,000 人のパークボランティアが活動した。</p> <p>質の高い効果的な自然解説を行うことを目的とした研修を 4 コース実施した。</p> <p>田貫湖ふれあい自然塾で自然環境学習に寄与するモデル的な活動プログラムを開発し、全国に向け普及啓発を行うとともに、自然観察の森等における先進的な取組の支援を実施した。</p> |

| | | | | | |
|------------------------------|---|-------|-----------------------|-----|--------|
| 下位目標 2 | 自然に親しむ運動等により、自然とのふれあいの推進を都道府県等に広く呼びかけるとともに、観察会等を実施する。また、ホームページ（インターネット自然研究所）などにより、自然とのふれあい施設、各種行事等の自然情報を提供。これらの充実に努め、自然とのふれあいの機会の提供を図る。 | | | | |
| 指標 | H12年度 | H13年度 | H14年度 | 目標値 | H - 年度 |
| (参考指標) 子どもパークレンジャー参加者数(人) | 1,058 | 951 | 968 | | - |
| インターネット自然研究所アクセス数(件) | - | - | 466,720 (H15.3 月期) | | - |
| 達成状況 | <p>「自然に親しむ運動」期間中に全国の自然保護事務所において自然とふれあうための行事を開催するとともに、地方公共団体等にも実施を呼び掛けた。また、十和田八幡平国立公園十和田地域(青森県十和田湖町)において、第 44 回自然公園大会を開催し、環境大臣表彰等を実施した。</p> <p>全国各地の国立公園等の利用拠点 11 地区において、自然保護官(レンジャー)の指導の下、約 1,000 人の小中学生が国立公園等のパトロール、利用者の指導啓発、自然探勝路や登山道等の清掃・維持補修、動植物の生息・生態調査、自然観察活動等に取り組むプログラムを実施した。</p> <p>また、エコツーリズムの先進地である西表島における具体的なエコツーリズムの展開に係る調査を実施した。</p> <p>インターネット自然研究所について、操作性の向上や新たなコンテンツの追加などのバージョンアップを実施した。</p> | | | | |

| | | | | | |
|------------------------------|---|---------|---------|-----|--------|
| 下位目標 3 | 国立・国定公園等の自然公園における優れた自然や山里等身近な自然の中で、国民が自然に学び、自然を体験する、自然との豊かなふれあいの場づくりを推進する。 | | | | |
| 指標 | H12年度 | H13年度 | H14年度 | 目標値 | H - 年度 |
| (参考指標) 自然公園等の利用者数 (千人) | 952,262 | 936,773 | 934,732 | | - |
| 達成状況 | <p>平成 13 年度より、自然公園利用拠点等において、現代のニーズに適した公園利用への転換を推進し、利用の活性化を図るため、「自然公園利用拠点新活性化事業」を実施した。また、中高年等の登山ブームを背景に、登山者が集中して植生の荒廃や浸食を招いている登山歩道について、自然環境を保全しつつ安全、適切な施設を整備するため、「利用集中特定山岳地域登山歩道整備事業」を実施した。</p> <p>自然に学び、自然の仕組みや大切さへの理解を深める「自然学習環境整備事業」、二酸化炭素の吸収源である植生、自然エネルギーを活用した地球にやさしい施設を整備する「環境共生推進特別整備事業」等を引き続き実施した。</p> | | | | |

| | | | | | |
|-----------------------------------|---|------------|------------|-----|--------|
| 下位目標 4 | 温泉法の適正な運用に努めるとともに、温泉の保護及び効率的利用等に関する調査やふれあい・やすらぎ温泉地整備事業を実施する。 | | | | |
| 指標 | H12年度 | H13年度 | H14年度 | 目標値 | H - 年度 |
| (参考指標) 国民保養温泉地年度延 宿泊利用人員(人) | 14,716,682 | 15,594,906 | 15,121,005 | | - |
| 達成状況 | <p>温泉の保護及び効率的利用等に関する調査として「短・中期滞在の温泉利用における療養効果等検討調査」及び「温泉利用施設における衛生管理等検討調査」を実施した。</p> <p>ふれあい・やすらぎ温泉地整備事業を2地域において実施した。</p> | | | | |

評価、及び今後の課題

| | |
|--|--|
| | <p>【必要性】(公益性、官民の役割分担等)</p> <p>環境問題への関心の高まりに加え、余暇時間の増大、都市化や高齢化の</p> |
|--|--|

進行等により、優れた自然風景や野生生物等とのふれあいを求める国民のニーズは高まっており、こうしたニーズに対応する施策の公益性は高い。

自然とのふれあいについては、近年民間における取組が進んできているものの、その傾向を維持・強化し、かつ質の向上を図るためには、行政の継続的な支援や普及啓発等が不可欠である。今後とも、行政が自然とのふれあいの機会や場を設けることにより更に多くの国民が自然とふれあうことを推進するとともに、そのための人材の質の向上や自然体験活動のより良い手法の模索等によって質の高い自然ふれあい活動の提供を行っていくことが必要。なお、ボランティアによる自然ふれあい活動の提供には一定の限界があり、ビジターセンター等の中核施設には専任のインタープリター（自然解説者）を配置する必要がある。

自然とのふれあいの場の整備については、広場、歩道、公衆便所等の公益性の高い事業については、国及び地方公共団体が先行し、その他の収益性のある事業については、民間団体が国等の認可を受けて行うという考え方のもとに官民の役割分担を行っている。

また、国立公園に関する公園事業は、自然公園法により、第一義的には国が実施する責務を負っており、国立公園の利用拠点等の整備については、国は直轄事業として実施し、国立公園以外の利用拠点における事業については、地方公共団体が主体となって整備を実施するとの考え方のもとに、国、地方公共団体の役割分担を行っている。

中高年層の登山や身障者による自然公園の利用のニーズが高まっていることから、こうした人々の安全かつ快適な利用を図るための施設整備を今後とも進めることが必要である。

【効率性】（効果とコストとの関係に関する分析等）

自然とのふれあい活動のサポートや、自然とふれあう機会や情報の提供については、継続的な施策の実施により効果を上げているところ。

自然とのふれあいの場の整備は、広く国民に自然とのふれあいの場を提供するものであり、公益性、公共性が高く、収益性は低いことから、公共事業として実施することが適当である。なお、整備事業を行うに当たっては、個別の設計見直しなどトラベルコスト法を用いた費用便益分析等の事業評価を実施し、コスト以上の効果がある事業について実施することとしている。

【有効性】（達成された効果等）

目標に対する総合的な評価

自然とのふれあい活動のサポート、自然とふれあうための機会や情報の提供、自然とのふれあいの場の整備及び温泉の保護と適正利用の推進の実施に

より、自然とのふれあいを求める国民のニーズに応えとともに、自然とのふれあい活動を通じて自然への理解を深め、自然を大切にする気持ちの育成が図られた。

下位目標毎の評価

(下位目標1)

自然とのふれあいをサポートする人材の育成・確保を図りつつ、自然体験活動の拠点のモデルとなるよう田貫湖ふれあい自然塾において自然体験活動ガイドラインの検討などに先駆的に取り組むとともに、全国各地における自然とのふれあいの機会や情報を積極的に提供することにより、自然とのふれあい活動の促進に寄与した。

(下位目標2)

都道府県等に対し、自然に親しむ期間中の自然とのふれあいの推進を呼びかけ、観察会の実施、ホームページ等による情報提供等を行うことにより、自然とのふれあいに関する国民のニーズに応え、自然への理解と関心を高める効果がもたらされた。

西表島におけるエコツーリズムの調査・検討において、地域住民を対象としたワークショップ等を通じて、エコツーリズムの推進に必要な地域住民のエコツーリズムに対する理解・協力のための意識醸成等が図られた。

インターネット自然研究所については、前年同月に比べアクセス数は大幅に増加しており、目標の達成に寄与している。

(下位目標3)

自然とのふれあいの場の整備を推進することにより、国民が安全・快適に自然とふれあうことが可能となり、自然とのふれあいが推進され、自然への理解と関心を高める効果をもたらしており、年間延べ9億人以上の人々が、自然とのふれあいを求め自然公園を利用。さらに、内閣府の世論調査によれば、今よりもっと自然とふれあう機会を増やしたいと思うと答えた人が回答者の7割を超えるなど、今後も多くの人々の利用が十分期待され、その有効性は高い。

(下位目標4)

温泉については、温泉法に基づき温泉の適正な利用が推進された。また、ふれあい・やすらぎ温泉地の整備により、健全な温泉利用を通じた自然とのふれあいを推進した。

より環境教育・環境学習の視点を重視するなど、自然とのふれあいに関する各種施策の充実を図りつつ、総合的に推進することが必要である。

| | |
|-------|--|
| 今後の課題 | <p>エコツーリズムの推進に必要なガイドラインの策定、地域住民等の理解・協力などへの取組が必要である。</p> <p>インターネット自然研究所については、利用者のニーズを把握し、必要なバージョンアップを実施する。</p> <p>自然とのふれあいの場の整備に関しては、公園施設のグリーン化など地球環境の保全の視点を重視した事業、山岳環境の保全、修復など自然環境の保全・再生、地域の活性化等の視点を踏まえた事業を重点的に展開するとともに、事業の計画的な推進を図ることが必要である。</p> <p>国立公園等の環境教育・環境学習の拠点であるビジターセンター等において、多彩かつ質の高い利用など新たな視点での自然系環境教育を推進するため、インタープリター（自然解説者）の配置が必要である。</p> <p>温泉については、温泉法の制度運用状況を的確に把握するとともに、温泉の適正な利用に向けた調査、検討及び温泉地の整備事業を国際的利用、滞在型利用及び地域活性化の観点から適切に推進することが必要である。</p> |
|-------|--|

政策への反映の方向性

| | |
|-----------|---|
| 事業の改善・見直し | <p><u>理由の説明</u>（新規、<u>拡充</u>、縮小、廃止等）</p> <p>国民の自然への関心の高まり、自然体験活動のニーズの高まりを背景に、総合的な学習の時間の場としての活用など、国立公園等における自然系環境教育のあり方や活用方策について見直しが必要。</p> <p>国立公園のビジターセンター等における環境教育・環境学習を更に進めるため、インタープリター（自然解説者）を配置することが必要。</p> |
| 現行のまま継続 | <p><u>理由の説明</u></p> |

【別紙】

事務事業シート

| 施策名 | - 8 - (6) 自然とのふれあいの推進 | |
|-------------------------------|---|---|
| 事務事業名 (関連下位目標番号) | 事業の概要 | 主な関連予算事項等 (14年度予算) |
| 自然とのふれあい活動のサポート (下位目標1) | <p>全国各地の自然公園において、約 3,000 人の自然公園指導員が利用者への指導、情報収集等を実施。</p> <p>約 2,000 人のパークボランティアが、自然解説等を実施。また、平成 14 年度は、7 地区において、新たにパークボランティアの追加登録に係る研修会等を実施。</p> <p>自然ふれあい体験学習活動の先進地である田貫湖ふれあい自然塾(平成 12 年開校)等において、先駆的、モデル的な体験プログラムの開発、実践、情報発信を実施。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然公園指導員費 (13 百万円) ・ パークボランティア活動推進費 (12 百万円) ・ 自然ふれあい体験学習等推進事業費 (21 百万円) |
| 自然とふれあうための機会や情報の提供 (下位目標2) | <p>「自然に親しむ運動」期間中、自然とふれあうための行事や、自然公園大会等を開催。</p> <p>約 1,000 人の小中学生が、国立公園等のパトロール、利用者の指導啓発、自然探勝路や登山道等の清掃・維持補修、動植物の生息・生態調査、自然観察活動等に取り組むプログラムを体験。</p> <p>全国各地の最新の自然情報を幅広く提供し、自然環境学習の教材として役立てることのできるホームページ「インターネット</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然公園等利用推進事業費 (15 百万円) ・ 子どもパークレンジャー事業費 (17 百万円) ・ インターネット自然研究所バージョンアップ事業費 (90 百万円) ・ 自然ふれあい体験学習等推進 |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| | ト自然研究所」を管理・運営。 | 事業費（再掲 21 百万円） |
| 自然とのふれあいの場の整備 （下位目標 3） | 国立・国定公園等において、自然との多様なふれあいを求める国民のニーズに対応するため自然との豊かなふれあいの場の整備を実施。 | 自然公園等事業費 （13,590 百万円） |
| 温泉の保護と適正利用（下位目標 4） | 貴重な天然資源である温泉源を将来にわたって保護するとともに、温泉利用者の健康を保護し適正な利用に向けた調査、検討を実施。また、温泉地における施設整備事業を適切に推進し、健全な温泉利用を通じた自然とのふれあいを推進。 | 温泉の保護及び効率的利用に関する調査費 （13 百万円） 自然公園等事業費のうち、ふれあい・やすらぎ温泉地整備事業 （159 百万円） |

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

| | | | | | | |
|--|-------------------------------|-----------------|-----------|-------|-----|-----|
| (施策名) -8-(6)自然とのふれあいの推進 (下位目標番号) (下位目標2) | 単位 | 現況値(時点) | 目標値(目標年次) | | | |
| (指標名) 子どもパークレンジャー参加者数 (参考指標) | 人 | 964 (平成14年度) | - | | | |
| 指標の解説(指標の算定方法) 子どもパークレンジャー参加者数の実績 | | | | | | |
| 評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別) 平成14年度子どもパークレンジャー事業報告書 (平成15年5月公表予定) | 関連する事務事業名 自然とのふれあう機会や情報の提供 | | | | | |
| 目標値設定の根拠 - | | | | | | |
| 特記事項 (外部要因の影響など) - | | | | | | |
| 目標値の実績値 (表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載) <p style="text-align: right;">(単位:千人)</p> | | | | | | |
| | 参考指標 | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 |
| | 自然公園等の利用者数 | | 996 | 1,058 | 951 | 964 |

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

| | | | |
|---|-------------------------------|-----------------------|-----------|
| (施策名) -8-(6)自然とのふれあいの推進 (下位目標番号) (下位目標2) | 単位 | 現況値(時点) | 目標値(目標年次) |
| (指標名)インターネット自然研究所のアクセス数 | 件 | 466,720 (平成15年3月期) | - |
| 指標の解説(指標の算定方法) 毎月集計する総閲覧ページ数をアクセス数として使用 | | | |
| 評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別)インターネット自然研究所定例会資料(非公開)定例会は月1回開催 | 関連する事務事業名 自然とのふれあう機会や情報の提供 | | |
| 目標値設定の根拠 | | | |

| |
|---|
| - |
| 特記事項 (外部要因の影響など) |
| - |
| 目標値の実績値 (表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載) - |
| - |

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

| | | | | | |
|---|----------------------------|---------------------|--------------|---------|---------|
| (施策名) -8-(6)自然とのふれあいの推進 (下位目標番号) (下位目標3) | 単位 | 現況値(時点) | 目標値(目標年次) | | |
| (指標名)(参考指標名) 自然公園等の利用者数 | 千人 | 934,732 (平成13年度) | - (平成 年度) | | |
| 指標の解説(指標の算定方法) 国立公園、国定公園及び都道府県立自然公園の利用者数 | | | | | |
| 評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別) 平成13年自然公園等利用者数調(一部公開) | 関連する事務事業名 自然とのふれあいの場の整備 | | | | |
| 目標値設定の根拠 - | | | | | |
| 特記事項 (外部要因の影響など) | | | | | |
| 目標値の実績値 (表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載) (単位:千人) | | | | | |
| 指標 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 |
| 自然公園等の利用者数 | 959,460 | 946,710 | 952,262 | 936,773 | 934,732 |

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

| | | | |
|---|----|------------------------|--------------|
| (施策名) -8-(6)自然とのふれあいの推進 (下位目標番号) (下位目標4) | 単位 | 現況値(時点) | 目標値(目標年次) |
| (指標名)(参考指標名) 国民保養温泉地年度延宿泊利用人員 | 人 | 15,121,005 (平成13年度) | - (平成 年度) |
| 指標の解説(指標の算定方法) 国民保養温泉地における年度延宿泊利用人員数 | | | |

| 評価に用いた資料（インターネットの公開・非公開の別） 平成13年度温泉利用状況（公開） | 関連する事務事業名 温泉の保護と適正利用 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|--------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 目標値設定の根拠 - | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特記事項（外部要因の影響など） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目標値の実績値 （表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載） （単位：人） <table border="1" data-bbox="320 696 1305 891"> <thead> <tr> <th data-bbox="320 696 491 745">指 標</th> <th data-bbox="491 696 662 745">H 9</th> <th data-bbox="662 696 833 745">H 1 0</th> <th data-bbox="833 696 1003 745">H 1 1</th> <th data-bbox="1003 696 1174 745">H 1 2</th> <th data-bbox="1174 696 1305 745">H 1 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="320 745 491 891"> 国民保養温泉 地年度延宿泊 利用人員 </td> <td data-bbox="491 745 662 891">13,301,386</td> <td data-bbox="662 745 833 891">12,999,348</td> <td data-bbox="833 745 1003 891">14,716,682</td> <td data-bbox="1003 745 1174 891">15,594,906</td> <td data-bbox="1174 745 1305 891">15,121,005</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 指 標 | H 9 | H 1 0 | H 1 1 | H 1 2 | H 1 3 | 国民保養温泉 地年度延宿泊 利用人員 | 13,301,386 | 12,999,348 | 14,716,682 | 15,594,906 | 15,121,005 |
| 指 標 | H 9 | H 1 0 | H 1 1 | H 1 2 | H 1 3 | | | | | | | | | | | | |
| 国民保養温泉 地年度延宿泊 利用人員 | 13,301,386 | 12,999,348 | 14,716,682 | 15,594,906 | 15,121,005 | | | | | | | | | | | | |